

2026 山の足跡1 新年あっぱれ山行

櫛形山 (2026/1/3-4)

L : H本、A原、K林、S田石、H多、H麻、H口

新しい年になって今年初の山行は山梨の櫛形山である。富士山も間近に眺められてお正月らしい山行になるんじやないかと期待が膨らむ。

藤野パーキングを過ぎると中央道の両側は樹氷に包まれたような景色に変わった。昨晚東京でも初雪が降ったがこの辺りではまだその名残りを留めていた。談合坂SAでS田石車と合流し南アルプス市のスーパーで買出しを済ませてから登山口である伊奈ヶ湖に向かった。

今日は中尾根を上ってほこら小屋に泊まる予定だが、小屋がいっぱいの場合を考えテントを持って行く事にした。予報では2,000m地点で気温-10度となっているので寒さ対策を考えてきたが、カンちゃんが厚いダウンを持っているのを見たら自分の装備ではちょっと心配になる。ぜひとも何とか小屋の中に泊まりたい。

11:15、中尾根の登山口を出発。最初は薄暗い杉林の中を歩いて行く。H本さんを先頭にAねーさん、カンちゃん、ポンちゃん、僕、H麻、S田石さんと続いているが偶然にも男女が交互になっていて男女七人冬物語という感じである。やがて杉林から雑木林に変わって来ると木立の間から富士山も窺えるようになってきた。

結構な上りが続きH麻の足が遅れるようになってきた。林道に出た所で一本取ると「H麻の荷物を少し持ってあげたら」とAねーさんが言う。それで水を引き受けると「よかつたらアタシのポン酢もどうよ」だって。そのAねーさんのザックは40lと小さい。するとカンちゃんが横目で見ながら

「だいたいテント山行なのに40lなんてのはどうかしてるよ」とたしなめてくれた。

途中で下りてくる単独行とすれ違った。「けっこう人居ましたか?」と聞くと他に一人だけだと答えた。…という事はほこら小屋に絶対泊まれる。俄然気持ちが高ぶってきた。



14:15、ほこら小屋に着いた。陽だまりの中に建つきれいな小屋であった。周りの木々が伐採されていて富士山が正面に見える。ここを貸し切り、最高!

水場も水がちゃんと流れている、担いできた水にさらに補充して小屋の中に並べた。ギンマを敷いて宴の場を整えると車座になって、さあ、新年会である。

窓を開ければ富士山も見えて16:30近くになるとだんだんオレンジ色を帯びてきた。小屋の中でも少しづつ冷気が増してきている。これはお酒で体を温めなければ。

夕食はまず焼肉、そしてしゃぶしゃぶであった。しゃぶしゃぶは鍋の中に泳がせているキャベツと一緒に食べる方式。最後に煮込みラーメンを入れてくれる。

外に出てみるとその日はちょうど満月だったので星は少なかったが甲府盆地の灯りが広がっているのが見えた。

さすがに小屋の中と言えどやはり寒いので、他に誰もいない事だし、中でテントを張ってその中で寝る事にした。おかげでみんな安眠できたようである。

日の出を見ようという事で 6 時に起床した。富士山はここから東南の位置にあってシルエットの縁取りが徐々に赤みを付けてくる。そして 6:50 頃、左の裾野から陽が昇って来た。周囲が全てまぶしい光に照らされてきた。

8 時に小屋を出た。昨日に続いて今日も雲一つ無い青空で無風。何ともお正月らしい天気である。

歩き出すと葉を落とした木々の枝にはとろろ昆布みたいのがひらひらしている。一帯の木々にはそのとろろ昆布みたいのがまとわりついていてトトロの森ならぬトロロの森となっていた。

「なんかモスグリーンできれいっちゃきれいだね」と Aねーさんが言うようにそれが森に明るさを添えていた。ポンちゃんが調べてくれてそれは“サルオガセ”という地衣類だそうだ。

分岐の 2,020m 地点にザックをデポして櫛形山山頂へ向かった。8:50、山頂に到着。富士山の方面だけ展望が望めたが富士山はちょうど逆光となっていた。みんなで写真を撮っても真っ黒。でも何かいい。



「こつから 5 分くらい下りてった所に南アルプスがドーンと見えっこあるから行ってみない」と H本さんが言った。

鹿除けの柵を越え下って行くとまた上り出し 10 分行った所は櫛形山のもう一つのピークの奥千重だった。

「あれオレ間違えてたかな、こつから 5 分だったかな」と H本さんが言うと「だまされたあ～」と Aねーさんが声を上げた。

さらに 10 分掛ったが南アルプスの大展望が望める所に着いた。さすが H本さんが薦めただけのことはある。北は甲斐駒ヶ岳から南は筑ヶ岳までの大パノラマである。北岳、間ノ岳、農鳥岳の白峰三山はやはり南アルプスの中心だ。

「それにしても今年はまだ雪少ないんだなあ」と誰かが言うようにこの時期だったらもっと下まで真っ白であってほしかった。

櫛形山まで引き返すがこの辺りではカラマツやダケカンバの巨木が多く見られた。「こんな太いダケカンバ見た覚えが無い」とカンちゃんでさえ言っていた。サルオガセがはびこるのも含めてこの山は生命力に満ちているようだ。

デポしていたザックを回収して今度は裸山の方へ向かう。森の地面は一面緑の苔で覆われて美しい。サルオガセや苔が育つほどこの辺りは湿り気が十分なのだろう。

裸山はその名が示すとおり木がまばらな丸刈りみたいなピークとなっていて見晴らしが良かった。白峰三山が先ほどより間近に見える。

「さっきんとこまで行かなくともここで十分だったかな」と H本さんが自嘲気味に言ったがそんな事無い。あちらはあちら、こちらはこちらの眺めの良さがあるのだから。ちなみに裸山の周りは柵で囲まれている。裸山の周辺およびアヤメ平はアヤメの群落になっており自然記念物として保護されているのだ。

アヤメ平は柵でなくロープで保護区が区別されていた。さすがに柵だと味気ないだろう。アヤメの見ごろは 7 月の上旬だそうだ。ここにも避難小屋兼休憩場があるのでその頃ここでゆっくり観賞するのも良さそうだ。

アヤメ平から北尾根を下って行く。トラバースぎみに下る登山道には落ち葉が厚く積もっていた。落ち葉の下には浮石もあって歩きにくい。みんな黙って下って行く。

そんな折、Aねーさんの体がクニヤッと傾きザーッと右斜面に頭から落ちて行った。「！」しかし体をこごめたのか体勢が代わりうまいことに足が下になりちょうどその右手にあった倒木に手を伸ばして止まった。8mくらいの滑落だったが事無きを得た。無事で何よりだった。本人もどうしてだかわからなかつたそうだが、おそらく見えなかつた浮石に足を取られたのだろう。下りの一歩一歩がますます慎重になって足腰や肩に力が入る。

いったん林道を横切った先が見晴らし平で、ここからも富士山がきれいに見える。他にも八ヶ岳や浅間山、金峰山、瑞牆山がはるかに眺められた。

再び北尾根の下りを歩き出す。アヤメ平から延々と続く長い下りに腿の外側がピリピリしてきていた。

13:05、北尾根登山口に出た。後は舗装路を歩くだけなので一本を取る事にした。ザックを置いて膝を折り曲げると筋肉がビーンと来る。いやあ、足腰、よく頑張った。最後は流し運転するように歩き 13:30、中尾根登山口に戻って来た。

この後は笛吹市の寺尾の湯へ立ち寄り、石和温泉のほうとう屋で食事をしてそこで解散となつた。

一つヒヤリはあつたけれど、それを除けば良い山、良い天気、良いメンバーという良いよいづくしの素晴らしい初山行だった。お正月にふさわしく富士山に見守られ、こいつは春から、あつ、縁起がいいやあ。

ただし翌日から重度の筋肉痛という手痛いお年玉があつたことも付け加えておこう。

(H口 記)

